

第 1 回農林水産部会における委員意見の整理

テーマ	意見要旨	意見者	資料 4 での 対応状況
目指す姿 1 農業の食料供給力の 強化	農林水産部は、県内での 6 次産業化にとどまらず、県内外の食品製造業に対する加工用原料の供給を視野に入れ、メーカーのニーズの掘り起こしなども含めた農産物の生産振興に取り組んでいただきたい。	藤本委員	1-③⑤
	本格デビューを迎える「サキホコレ」について、ふるさと納税の返礼品に活用してもらえるよう県からも働きかけてもらいたい。	田口委員	1-④
	スマート農機の導入促進だけでなく、普通の農機を活用した作業体系や機械体系の見直しによる効率化もあわせて進めるべきと考える。	川田部会長	1-②
	肥料価格の高騰を踏まえ、化成肥料の代替として、畜産由来の堆肥やクローバーなどの緑肥、木質バイオマス発電で発生する草木灰など、国内の資源の有効活用も検討していただきたい。	川田部会長	1-②
	農業で使用される肥料による水質の富栄養化が八郎湖の水質悪化の大きな要因となっていることから、肥料使用量の低減や無代かき栽培などの取組を進めてもらいたい。	工藤委員	1-②
目指す姿 2 林業・木材産業の 成長産業化	再造林は、将来的な森林資源の確保に向け、たいへん重要な取組であるが、作業が重労働であるため、人材確保が課題となっている。	田口委員	2-②
	大規模な中国木材(株)の能代市進出により、県北地域の林業・木材産業を中心に、労働力不足と輸送力不足が発生することが懸念されるので、体制整備に向けた県の支援をお願いしたい。	田口委員	2-①③
	再造林の促進に向け、課題となっている雇用・労働環境などを改善するための財源が足りないのであれば、森づくり税や森林環境譲与税などの見直しも検討すべきと考える。	藤本委員	2-②
	再造林の省力化技術として、砂漠の緑化などに使われている粘土などでコーティングした種子の散布などの手法は活用できないか。	川田部会長	2-②

テーマ	意見要旨	意見者	資料4での対応状況
<p>目指す姿3</p> <p>水産業の持続的な発展</p>	<p>蓄養殖の取組拡大に向けた静穏域の確保対策として、漁港の整備とあわせて、船川港の十分活用されていない部分など、既存の港湾の活用についても検討してもらいたい。</p>	<p>工藤委員</p>	<p>3-③</p>
	<p>ハタハタの不漁が続く、ハタハタに依存しない漁業経営を考えるべきと言われていたが、漁業者が個人個人で対応するのは難しいことから、県でリーダーシップを取って進めていただきたい。</p>	<p>工藤委員</p>	<p>3-③</p>
	<p>若い人たちは補助事業をうまく活用しているが、そうではない人たちが不利益を被らないよう、事業の立案に際しては相談いただきたい。</p>	<p>工藤委員</p>	<p>3-①②③④</p>
	<p>小ロットながら、しっかりと下処理をした鮮魚をふるさと納税の返礼品に採用し、好評価を得ている事例もあるようだが、こうした取組を県内で広めることはできないか。</p>	<p>田口委員</p>	<p>3-③</p>
	<p>蓄養殖について、大衆向けの魚種にも取り組み、安定的な産業への発展を目指していただきたい。</p>	<p>藤本委員</p>	<p>3-③</p>
	<p>蓄養殖の推進の関連で、魚の排泄物を利用して野菜を育てる「アクアポニックス」を視点の一つとして取り入れることはできないか。</p>	<p>川田部会長</p>	<p>3-③</p>
	<p>成果指標「つくり育てる漁業対象種の生産額」について、目標の達成には販売単価の向上が不可欠である。コロナ禍により魚価が低迷しているので、販売・流通サイドの特段のご理解とご協力をお願いしたい。</p>	<p>工藤委員</p>	<p>3-③</p>
	<p>販売価格は、購買者が「商品」に価値を見出し、支払いを了承する金額と考えている。県内では、農産物や加工品の品質が優れていても、販売に向けて「商品化」する技術が不足していると感じることが多い。</p>	<p>藤本委員</p>	<p>3-③</p>
<p>目指す姿4</p> <p>農山漁村の活性化</p>	<p>秋田県は観光地と農山漁村が近いのもっと連携すべき。例えば、角館には観光客が多く訪れるが、ホテルが少ないので農家民宿の活用を進めたり、季節ごとの農作業体験を観光プランに組み入れるなどが考えられる。</p>	<p>田口委員</p>	<p>4-②</p>
	<p>農山漁村の観光資源となる農家民宿や農家カフェ・レストランと、地域おこし協力隊や地元メディアとの連携を、行政側からしかけてみてはどうか。</p>	<p>藤本委員</p>	<p>4-②</p>
	<p>農業生産にも田んぼダムにも農業用排水は重要であるが、担い手の不在により水路の泥上げ等の管理が適切に行われず、水路網がうまく機能していないところがある。</p>	<p>川田部会長</p>	<p>4-④</p>